

● 序	田中信治
-----	------

## ■ 基礎編—手技のコツとポイント—

### ■ 第1章 治療法選択のための術前内視鏡診断

1) 注腸X線診断	斎藤裕輔, 藤谷幹浩	10
2) 通常内視鏡診断 (通常内視鏡による深達度診断: 治療法選択のための深達度診断に有用な通常内視鏡検査所見)	斎藤裕輔, 渡二郎	19
3) 拡大内視鏡診断	岡志郎, 田中信治	25
4) NBI観察(拡大を含めて)	田中信治, 平田真由子	31
5) 超音波内視鏡(超音波細径プローブ)診断	斎藤裕輔, 藤谷幹浩	41

### ■ 第2章 EMRとESDの適応

1) EMRの適応	田中信治	46
2) EPMR(分割EMR)の適応	田中信治	49
3) ESDの適応	田中信治	54
コラム 内視鏡治療方針(大腸癌治療ガイドライン2005年版)	田中信治	59

### ■ 第3章 EMR/ESDの実際と基本手技~コツとピットフォール

#### ① EMRのコツとピットフォール

1) スネアの種類と特性	岡志郎, 田中信治	60
2) 局注液の種類と特性	檍田博史	64
3) 局注のコツとポイント	檍田博史	66
4) 状況に応じたスネアの選択	岡志郎, 田中信治	70
5) スネアリングのテクニック	山野泰穂	75
6) 切除部の根治度判定, トリミング	岡志郎, 田中信治	78

7) 切除標本の取り扱い	山野泰穂	82
8) 病理学的根治度判定	味岡洋一	85
<b>コラム</b> 切除標本の根治度判定（大腸癌治療ガイドライン2005年版）	田中信治	90

## ② 分割EMR（EPMR）のコツとピットフォール

1) 分割EMR（EPMR）の実際とピットフォール	岡 志郎, 田中信治	91
---------------------------	------------	----

## ③ ESDのコツとピットフォール

1) ナイフ・フードの種類と選択	吉田 晃, 堀田欣一	96
2) スコープの種類・機能と選択	砂田圭二郎, 山本博徳	99
3) ESDに用いられる高周波発生装置の特徴と使い方	豊永高史	104
4) 戦略の立て方	豊永高史	111
5) CO <sub>2</sub> 送気装置の有用性	鈴木晴久, 斎藤 豊, 菊地 剛	116
6) 止血鉗子の種類と使い方	三谷年史, 矢作直久	120
7) 穿孔予防のための対策と注意点	田中信治	124
8) 辺縁切開EMR・スネアリング併用ESD	小泉浩一	128

## 第4章 偶発症対策

1) インフォームド・コンセントの重要性	日山 亨, 田中信治	133
2) 出血対策（EMR / ESD 全体, 抗凝固薬も含めて）	鶴田 修, 河野弘志	138
3) 穿孔対策	岡 志郎, 田中信治	142
4) 術後管理（EMR / ESD 全体）	佐田美和, 小林清典	146

## 実践編—Case Study : Q & A—

### 第1章 内視鏡治療法の選択とその手技の実際

～polypectomy, EMR, EPMR, ESD, 外科手術のどれを選択するか？～

1) 隆起性病変	田中信治	154
2) SM癌：EMR or 外科手術	山野泰穂	161
3) SM癌：EMR or ESD or 外科手術（LSTを中心に）	坂本 琢, 斎藤 豊	166

4) LST-NG : EPMR or ESD or 手術	岡 志郎, 田中信治	171
5) LST-G	樋田博史	175

## 第 2 章 太い茎を有する有茎性病変の切除とその手技の実際

1) 出血予防 1	鶴田 修, 河野弘志	182
2) 出血予防 2	樋田博史	189
3) 出血予防 3	岡 志郎, 田中信治	194

## 第 3 章 ひだにまたがる病変の切除のコツと手技の実際

1) 切除へのアプローチ 1	山野泰穂	197
2) 切除へのアプローチ 2	井上雄志	202

## 第 4 章 non-lifting sign陽性の評価と対応

1) 軽い線維化 : EMR / ESD	堀田欣一	206
2) 強い線維化 : EMR	井上雄志	211

## 第 5 章 線維化を伴う病変の切除とその手技の実際

1) 線維化がある場合のEMR	小泉浩一	216
2) 粘膜下層に軽度の線維化を伴った病変の切除手技	為我井芳郎	221
3) 粘膜下層に中等度から高度の線維化を伴った病変のESD	為我井芳郎	230

## 第 6 章 肛門に接する病変の切除とその手技の実際

1) 切除手技の選択 1	岡 志郎, 田中信治	239
2) 切除手技の選択 2	桐山真典, 斎藤 豊, 松田尚久	243

## 第 7 章 SM浸潤癌が疑われる病変の取り扱い, 切除とその手技の実際

1) 表面型病変	中村尚志, 大野康寛	249
2) 隆起型病変	中村尚志, 大野康寛	258
3) LST	山野泰穂	268

## 第8章 大きくて一括EMRで切除できない場合の切除とその手技の実際

1) 切除手技の選択1	山野泰穂	276
2) 切除手技の選択2	堀田欣一	282
3) 切除手技の選択3	為我井芳郎	286

## 第9章 切除標本の病理学的根治度診断の実際

1) 有茎性SM癌	味岡洋一	293
2) 筋板消失例	味岡洋一	296
3) 筋板断片化例	味岡洋一	298
4) 脈管侵襲陽性例	味岡洋一	300
コラム SM浸潤実測法の実際とポイント	味岡洋一	303

## 第10章 出血が生じた場合の対応・処置・術後管理

1) 漏出性	豊永高史	304
2) 動脈性, 噴出性	豊永高史	309

## 第11章 穿孔が生じた場合の対応・処置・術後管理

1) 微小穿孔	太田昭彦, 斎藤 豊	313
2) 大きな穿孔	鈴木晴久, 中島 健, 斎藤 豊	317
● 索引		322